

# 総務教育常任委員会資料

(平成31年3月6日)

## 【項目】

ページ

- 1 「平成30年度鳥取県に関するイメージ調査」の結果について  
【広報課】・・・1
- 2 小さな拠点の取組状況について 【とっとり暮らし支援課】・・・3
- 3 響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス2019の開催結果について  
【参画協働課】・・・5

元気づくり総本部



「平成30年度鳥取県に関するイメージ調査」の結果について

平成31年3月6日  
広 報 課

平成23年度に開始した県外居住者を対象に実施している、本県の観光・特産物等のイメージ等についての調査（8回目）の結果を報告します。

1 主な調査結果 ※○付数字は順位

- それぞれの調査項目に大きな変動はなかった。
- 「鳥取県と言われて連想するもの(①砂丘)」、「鳥取県の特産物(①二十世紀梨)」、「鳥取県の観光地(①鳥取砂丘、②水木しげるロード、③大山)」は、8年連続で順位不動。
- 特産物の認知度で、今回調査から「(白バラ牛乳・白バラコーヒー)」の表示を追加したところ、「乳牛・乳製品(白バラ牛乳・白バラコーヒー)」の項目が、認知率(⑧8.5→⑥15.6%)、食用経験率(⑦6.0→⑤11.1%)ともに、順位上昇、数値倍増した。これは、週刊誌に取り上げられた結果以外にも、従来「白バラ」ブランドを知っていても本県と結びついていなかったということも考えられる。

2 今後の対応

- 単なる情報発信ではなく、「白バラ牛乳」「大山」ブランドなどの、知名度が高く全国に流通している県内ブランドと鳥取県を関連付けた発信、また、現在戦略的に進めている「五輝星」、「夏輝」ブランドや、GI（地理的表示保護制度）登録された新たなブランド「大山ブロッコリー」「こおげ花御所柿」などを鳥取県と関連づけ、物産と観光誘客をセットでPRするなど、戦略的な情報発信を行う。
- 観光地一覧を示し、それぞれ毎に「行ってみたいか(否か)」の設問に「一つも行きたい場所がない」と回答した者が約30%ある一方で、そのうち4割の者が別の設問で「鳥取県を訪問してみたい」と回答。鳥取県に漫然と興味があるが具体的に「訪問意向がない」「魅力を感じない」方々へ情報を届け、魅力を感じていただくことを検討していく。
- 本調査結果を庁内関係課や市町村、広く県民へ提供し活用する。基幹的情報発信事業の受託事業者（PR会社）とも情報共有し、効果的な情報発信に努める。

3 結果概要 ※以下の【PO】表示は、別冊資料の頁です。

(1) 本県に対するイメージ

○「鳥取県」と言われて連想するもの（自由回答、複数回答可）【P6】

①砂丘 (78.2%) ②二十世紀梨 (4.1%) ③特こない・わからない (3.6%)

- ⇒ 調査開始以来、「砂丘」が常に突出してトップ。その他の回答は一律%以下。(他に連想するものがない状況。)
- ⇒ 「特こない・わからない」は、年々減少傾向。

○「砂丘」以外で連想するもの（前問で回答したものの以外で自由回答、複数回答可）【P7】

①特こない・わからない (25.1%) ②二十世紀梨 (14.6%) ③スタバ (無い・できた) (5.3%) ④かき (5.1%)  
⑤ゲゲゲの鬼太郎 (4.9%)

○鳥取県を表現する色といえば（自由回答）【P8】

①ブラウン系 (35.1%) ②イエロー系 (21.6%) ③グリーン系 (14.7%)

- ⇒ 約6割 (①②の計)の方が、「砂丘」をイメージしたと思われる。

○鳥取県の天候のイメージ（選択肢から択一）【P11】

①わからない・特こない (22.0%) ②晴れ (21.2%) ③曇天 (17.9%) ④風が強い (10.0%) ⑤雪 (9.5%)

- ⇒ 「快晴」「晴れ」「明るい」の晴れたイメージの回答がいずれも前年から増加
- ⇒ 年齢層で回答の特徴が異なり、若年層では「晴れ」、高年層では「曇天」が多かった。
- ⇒ 見聞きした鳥取県に関する話題を「ポケモンGO(鳥取砂丘スナホ・ゲーム解放区宣言)」と回答した者が「晴れ」と回答した率は27.1%と、全体の「晴れ」の回答率 (21.2%) を大きく上回っていた。
- ⇒ 「雪」との回答は、大幅に減少。(14.4→9.5%)

(2) 特産物・観光地等の認知度等

○認知度 (各項目ごとに知っているか回答) 【P13】

①スターバックスが都道府県で最後にオープン・すなほ珈琲 (47.8%)  
②ゲゲゲのふるさと鳥取県・水木しげるロードリニューアルオープン (40.1%)

- ⇒ 「スターバックス…」は全世代での認知度が4割以上と偏りなく認知

○特産物認知度 (各項目ごとに知っているか回答) 【P15】・食用経験 (各項目ごとに食べたことがあるか回答) 【P16】

①二十世紀梨 (61.5%) ②砂丘らっきょう (31.6%) ③ひとつもない (28.8%) ④かき (松葉かき、五輝星、ベニスワイガニ) (27.8%) ⑤大山どり (17.4%) ⑥乳牛・乳製品 (白バラ牛乳・白バラコーヒー) (15.6%)

⇒ 「二十世紀梨」は、8年連続1位と安定。

⇒ 「乳牛・乳製品(白バラ牛乳・白バラコーヒー)」は、選択肢に(白バラ牛乳・白バラコーヒー)の文言を今回調査から追加したところ、認知率前年比7.1pt増の15.6%、食用経験率同5.1pt増の11.1%となった。

#### ○観光地等の認知度・訪問経験・訪問意向

##### ＜認知度(各項目ごとに知っているか回答)【P19】＞

①鳥取砂丘(90.6%) ②水木しげるロード(51.5%) ③大山(37.1%) ④すなはち珈琲(29.3%)

⇒ 「①鳥取砂丘」～「③大山」のトップ3は、8年連続で同順。

⇒ 高年齢層ほど認知度が高い傾向。「水木しげるロード」は、最低の10代が35.5%、最高の60代以上が61.9%。

⇒ 一方で、「青山剛昌ふるさと館・コナンの家 米花商店街(11.9%)」は、若年齢層ほど認知度が高い。最低の60代以上が4.9%、最高の20代が17.0%。

##### ＜訪問経験(各項目ごとにに行ったことがあるか回答)【P20】＞

①ひとつもない(53.7%) ②鳥取砂丘(37.8%) ③大山(18.6%) ④水木しげるロード(17.4%)

⇒ まだまだ「訪問経験のない」方が多い。

⇒ 「水木しげるロード」と「大山」は、認知度と訪問経験の順位が逆転している。「水木しげるロード」は認知度の割に、「訪問経験」が低い状態が続いている。

##### ＜訪問意向(各項目ごとに行ってみたいか回答)【P21】＞

①鳥取砂丘(39.0%) ②ひとつもない(29.4%) ③水木しげるロード(22.0%) ④すなはち珈琲(17.8%)

⇒ 「②ひとつもない」が上位にあり、「③大山」の訪問意向が他の項目に比べ低い。

#### (3) 魅力向上に必要な分野・鳥取県に関する情報の入手

##### ○魅力向上に必要な分野(選択肢から択一)【P23】

①わからない・特がない(22.1%) ②交通整備(全般)(21.2%) ③情報発信・PR・知名度アップ(11.4%)

⇒ 「①わからない・特がない」が減少傾向。

⇒ 「②交通が困難」と考えている方が多い。

##### ○情報の入手経路(選択肢から択一)【P24】

①テレビ[番組+CMの合算](39.4%) ②インターネット[SNS+それ以外の合算](16.5%)

⇒ 「①テレビ」は8年連続で1位、突出。全年代で4割前後が回答。主要な情報入手経路となっている。

⇒ 「②インターネット」の中でも、特に[SNS(Twitter・Facebook等)(8.1%)]の割合が増加傾向。10代、20代での回答割合が比較的高い。

##### ○鳥取県について得たい情報(選択肢から択一)【P25】

①グルメ(25.5%) ②観光(19.3%) ③わからない・特がない(17.0%) ④温泉(8.3%) ⑤特産・名産(7.1%)

⇒ 定番のテーマが上位を占める。「①グルメ」は、PR戦略を考える上で重要なキーワード。

#### (4) 訪問意向等

##### ○鳥取県への訪問意向(行ってみたい、行きたくないの「二者択一」)【P27】

7割強(74.2%)が「行ってみたい」と回答。

⇒ また、「行ってみたい」は、年々、徐々に増加している。

##### ○鳥取県への非訪問理由(上記設問で「行きたくない」を選択した方。選択肢から択一)【P28】

①魅力を感じない(19.8%) ②わからない・特がない(17.3%) ③遠い・不便(17.3%) ④行く理由がない(16.2%)

⇒ 「④行く理由がない」が減少傾向。その反面、「①魅力を感じない」が増加しており、今回順位が逆転。

#### ＜参考＞調査の概要

##### (1) 調査期間

平成30年11月12日(月)から11月19日(月)まで

##### (2) 調査対象及び調査方法

楽天インサイト株式会社へ委託し、首都圏、中京圏、関西圏、中国・四国圏、九州圏の14都府県に居住する各年代別男女5,400人を対象に、インターネットでのアンケート調査を実施した。

(〔内訳〕首都圏2,400人、中京圏300人、関西圏900人、中国・四国圏1,500人、九州圏300人(地域毎の人口割合に応じて設定))

## 小さな拠点の取組状況について

平成31年3月6日  
とっとり暮らし支援課

県では、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生き生きと暮らし続けられる中山間地域における「小さな拠点」の取組を進めているところです。  
このたび、鳥取県と日本財団が共同プロジェクトとして進めていた2つの地区について施設の整備が完了し、新たな取組が始まることとなりました。  
「小さな拠点」は、以下の2地区を含めて、本年度末までに24地区で形成される予定です。  
今後も、小さな拠点の全県展開（30箇所）に向けて取組を進めていきます。

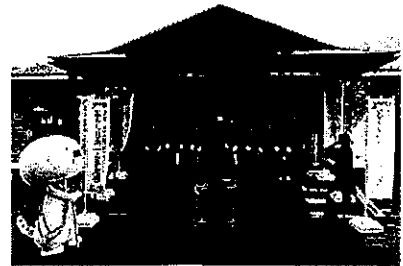
### 1 日南町多里地区

#### (1) 取組の概要（実施主体：多里地域振興組合）

##### (ア) 地域の拠点施設「ホームランド多里」の改修による地域生活支援機能の拡充

高齢化が進行し高齢独居世帯の多い多里地域において、ホームランド多里で総菜や弁当を調理し、配送対応できるように施設を改修する。

高齢者等の自宅への配送に併せ高齢者等の見守り支援も実施する。（配送・見守り支援は、NPO法人多里まちづくりサポートセンターに委託）



##### (イ) 地域循環カー（若返りカー）の運行

地域の高齢者等の外出支援、弁当宅配、健康づくりや地域コミュニティへの住民参加促進を図るため、地域を循環する車を運行する。（車の運行は、NPO法人多里まちづくりサポートセンターに委託）

##### (ウ) 地域ボランティアシステムの構築

高齢化等により地域において持続困難な業務（雪かき、庭掃除、布団干し、買い物等）に対応するため、地域のボランティアを集め住民同士で暮らしを支える共助の仕組みを構築する。

#### (2) オープニングセレモニー

(ア) 日 時 平成31年3月2日（土）午前9時30分から10時

(イ) 場 所 ホームランド多里（日南町多里 783-10）

### 2 江府町俣野地区

#### (1) 取組の概要（実施主体：江府町の地域医療を支援する会）

中山間地域の地域医療を守り、未来に繋ぐ地域医療人材の育成を図るため、旧俣野小学校（H21.3閉校）を改修し、新たな地域医療の拠点として「俣野ふれ愛学舎」を整備する。

この新たな地域医療の拠点の取組は、鳥取大学医学部、日野町立日野病院、江府町江尾診療所と連携して行う。

##### (ア) 内科診療所の設置

俣野地区及び近隣地区の健康を守るため、内科診療を行うとともに、健康づくり、健康指導など予防医療に重点を置いた地域医療を実施する。（週2回開設（月、木））

##### (イ) 医学生等の実習・研究の拠点の整備及び地域医療マインドを維持する拠点の整備

地域医療人材の育成を図るため、鳥取大学医学部学生等のフィールド実習・研究拠点、卒業生の地域医療マインド維持の拠点とするために施設改修を行う。

##### [参考]

上記の取組の他にも、旧俣野小学校では認知症の方やその家族、地域住民が集うことができるオレンジカフェや、認知症予防の運動等を行う「俣野いこい広場」が開催されている。

#### (2) オープニングセレモニー

(ア) 日 時 平成31年3月24日（日）午後1時から

(イ) 場 所 俣野ふれ愛学舎（旧俣野小学校（江府町俣野 690））

オープニングセレモニーに引き続きシンポジウムが開催される。（詳細は次ページのとおり）



またの  
地域医療人材育成拠点施設「**俣野** あいがくしゃ  
**ふれ愛学舎**」  
オープニングセレモニー・シンポジウム

平成21年3月末をもって廃校となった旧俣野小学校。今年4月、中山間地域における地域医療人材育成拠点施設「俣野ふれ愛学舎」として動き出します。開設を記念して、オープニングセレモニーおよびシンポジウムを以下の内容で行います。みなさまからのご参加を心よりお待ちしております。

日時

平成31年3月24日（日）午後1時～4時

（受付：午後0時30分～）

場所

またの  
「**俣野** あいがくしゃ

**ふれ愛学舎**」（旧俣野小学校）

※会場へマイクロバス（無料）をご利用される方は、当日の午後0時30分までに江府町防災・情報センターへお越しください。

内容

①オープニングセレモニー・テープカット

②シンポジウム

（1）講演：「この地域でしかできない未来の医療人づくりとは」

講師：鳥取大学医学部医学科 医動物学 准教授 大槻 均 氏

（2）パネルディスカッション

「地域医療を支える未来の医療従事者のためにできること」

【お問い合わせ】地域医療人材育成拠点施設準備担当（江府町役場福祉保健課内）

電話 0859-75-6111 FAX 0859-75-6161

## 響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス2019の開催結果について

平成31年3月6日  
参画協働課

地域づくり活動への参加意欲の向上を図るとともに、活動団体同士の交流を深め、活動の更なる広がりを図り、県民総参加の地域づくり活動「トットリズム県民運動」を推進することを目的として「響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス2019」を開催しました。

- 1 日 時 平成31年3月2日(土) 午前11時から午後6時まで
- 2 場 所 米子市淀江文化センター(米子市淀江町西原708-4)
- 3 主 催 響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス実行委員会(委員長 田端大祐氏)
- 4 来場者数 817人
- 5 概 要 分科会、ブース出展、交流会等を通じて、参加者同士の交流・連携が図られた。  
また、民間の実行委員会による企画・実施で、多くの方が楽しめるイベントとなった。

### (1) トットリズム活動表彰

過去最高となる48件の応募の中から、公開プレゼンテーション等により選出した、優秀団体7団体を表彰した。

【最優秀賞・若者活動部門優秀賞】安部小Project(八頭町)

(第1回安部地区総合祭「安部っ子夏祭り」)



【一般部門優秀賞】

浜湯山・多鯨ヶ池活性化委員会、小鴨ホテルの会、  
歯っぴいほっとスマイル、鳥取なにたべ!

【企業活動部門優秀賞】

鳥取県生活協同組合

【協賛企業賞(あいおいニッセイ同和損保賞)】

こっちの大山研究所

### (2) 講演会、パネルディスカッション

「つながる心 トットリズム♪心のかよう 地域コミュニティづくり」をテーマに、神戸モトマチ大学 代表 村上豪英(むらかみ たけひで)氏に「つながりのつくりかた」について講演いただくとともに、県内で活躍されているゲストの方から「つながりが生み出す地域の未来」等を語っていただき、心がかよう、誰もが自分らしく暮らせる地域コミュニティづくりについて考えるきっかけとなった。

<出演> 村上豪英氏(神戸モトマチ大学 代表、

アーバンピクニック事務局長)

松井克英氏(米子市永江地区自治連合会会長

(支え愛の店ながえ))

山田晋氏(鳥取県図書館協会会長)

貝本正紀氏(映像制作会社アマゾンラテルナ鳥取大山オフィス代表)

和田季子氏(コーディネーター、フリーアナウンサー)



#### <主な意見>

- ・人は小さなコミュニティに閉じこもりがちだが、社会全体でつながりを持つことも必要であり、多くの市民がまちづくりに参加し主体性をもってもらえるような取組を進めている。(村上氏)
- ・お年寄りから子どもまでの縦のつながりが生まれることにより、持続可能な温かい循環が生まれるのではないかと。つながりがあれば、関係性の中で地域課題が解決できる。(貝本氏)
- ・自立することや行政に頼るだけでは限界があり、人々が支え合いつなげる社会となるためにはどうすればいいか、自らが考え勉強をしていくことが必要である。(山田氏)

### (3) 分科会

#### ○「住んで楽しいまちづくり」

地域の多くの方が暮らしやすさを実感するために、住んで楽しいと思ってもらえるようなまちづくりに取り組む自治会の事例発表及び意見交換を行った。

##### <主な意見>

- ・地域活動も強いられてするのではなく、やりたいことをやることで、楽しみながら取り組むことができる。
- ・今後、人口が減少する中で、高齢世代の活躍が必要。ただし、高齢世代だけでなく、若い世代を巻き込んでいくことも必要である。



#### ○「地域づくりの輪の広げ方 ～若者や移住者との連携による地域づくり～」

若者や移住者などを地域に呼び込む方策や、応援してくれる人を増やすアイデアなど、実践の中から見つけた地域づくりの輪の広げ方について事例発表及び意見交換を行った。

##### <主な意見>

- ・若者は「カッコよさ」を求めていることが多く、見た目だけではなく、活動内容や生き方などの「カッコよさ」を感じられる地域イベントがあれば人が集まるのではないかと。
- ・地域住民、移住者、行政など立場を超えて気軽に話し合える場所では輪の広がりを感じられた。
- ・まちと向き合う、他者と触れ合う、トライしやすい環境があれば、若い人が地域のことをジブンゴトとして考え、地域への参加も広がるのではないかと。

#### ○「あなたの一歩で地域を元気に～身近なことからできる地域づくり・ボランティア～」

「とっとりプロボノ」や「カンパイチャリティー」など、余暇や日常生活の中で社会や地域へ貢献できる取組の事例発表及び意見交換を行った。

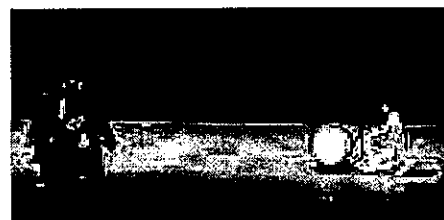
※プロボノとは、社会人や学生が仕事や勉学で培ったスキルを活かしてNPO団体を支援するボランティア活動

##### <主な意見>

- ・プロボノに参加することで、自分の生活の中では関係のなかった分野と繋がりを持つことができ、交友関係や活動の幅が広がった。
- ・カンパイチャリティーに参加する店舗がもっと増えると、より多くの人に参加できるようになる。

### (4) アトラクション

荒神神楽や淀江さんこ節を披露し、地域の伝統芸能への関心を高めるとともに、会場の雰囲気盛り上げた。



### (5) 交流会

実行委員会委員、トークセッション出演者や地域づくり団体関係者など、約60名が参加し、交流を図るとともに団体のPRや各分科会の総括が行われた。

### (6) 活動PRブース出展・よなごマルシェ出店

地域づくりに取り組んでいる団体や、そのネットワーク組織等23団体がブース出展を行い、地域づくり団体の活動PR等を通じて団体同士や来場者との交流を図るとともに、10店舗による「とっどりのうまいものグルメ」の販売を行った。



## 6 参加者の声

- ・高齢者対策、若者の活動への無関心等取組課題も多いが、あきらめずに前進したいという気持ちになった。
- ・パネルディスカッションでは、様々な角度からの意見が聞けて、大変参考になった。
- ・展示ブースの体験が楽しかった。
- ・若者から高齢者まで楽しめる内容であった。